

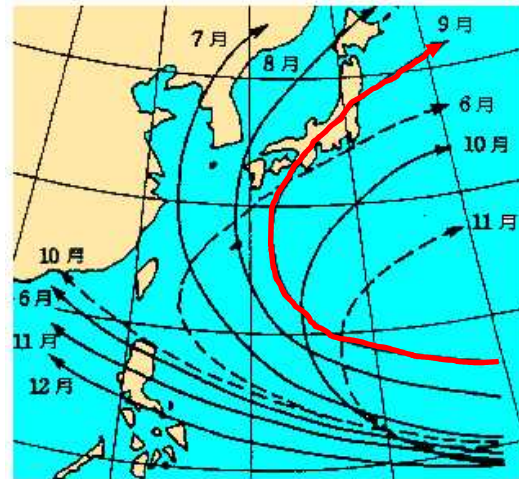
【9月の気象】

9月は、「仲秋」「月見」「秋刀魚」など秋を意味する季語が多いですが、最高気温が30度を超える真夏日も多く、まだまだ暑い日が続きます。農作物の管理や熱中症に注意が必要です。

気象庁ウェブサイトでは、熱中症の危険性が極めて高い気象状況の予想を熱中症警戒アラートとして提供しています。熱中症への健康管理にご利用ください。

熱中症警戒アラートのHPはこちら → <https://www.jma.go.jp/bosai/information/heat.html>

また、9月は台風の発生数、日本への接近数、上陸数が多くなる月です。発生数は8月に次いで多く、接近数、上陸数は最も多くなります。接近数や上陸数が多くなる、8月は日本付近を太平洋高気圧が覆っていますが、9月は太平洋高気圧の勢力が弱まることにより、太平洋高気圧のふちを回る形で北上してくる台風が日本付近に接近、上陸しやすくなるためと考えられます。気象庁では台風が発生すれば、気象庁HP等で台風の進路予想を随時発表しています。また、松山地方気象台では、愛媛県に台風が影響すると予想される場合には台風に関する愛媛県気象情報を発表し、台風による愛媛県への影響（暴風、大雨、高潮等）についてお知らせします。これらの情報を活用し早めの対策、早めの避難をお願いします。



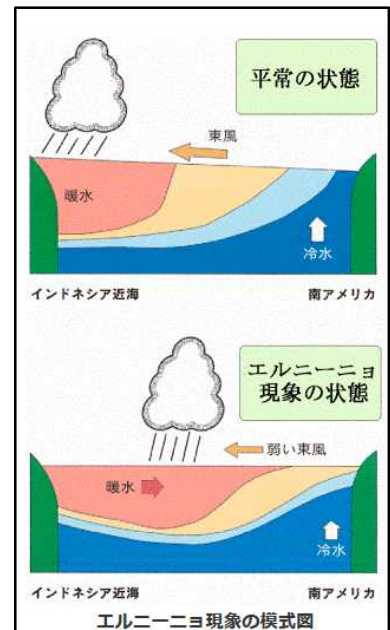
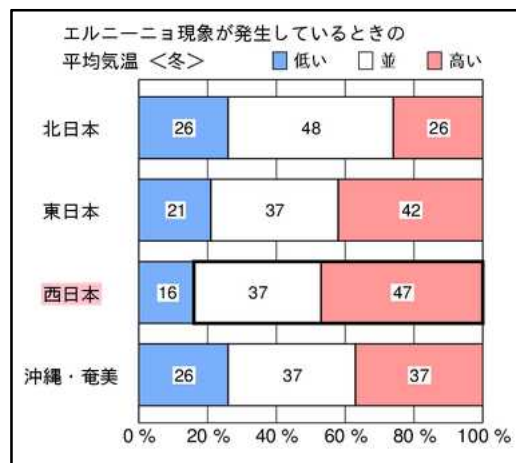
台風の月別の主な経路  
(実線は主な経路、破線はそれに準ずる経路)

【気象用語】「エルニーニョ現象」とは

気象庁では、2023年春からエルニーニョ現象が発生し、秋にかけても現象が継続する可能性が高いと発表しています。

エルニーニョ現象とは太平洋赤道域の日付変更線付近から南米沿岸にかけて海面水温が平年より高くなり、その状態が1年程度続く現象です。ただし、平年より何度以上高くなればとか、海域はどこかなど、決まった定義はありません。気象庁ではエルニーニョ監視海域（南緯5度-北緯5度、西経150度-西経50度）において海面水温の基準値（前年までの30年間の各月の平年値）を5か月移動平均値が6か月間0.5度以上となった場合をエルニーニョ現象といいます。

エルニーニョ現象が注目されるのは、日本のみならず世界の天候に影響を及ぼすためです。通常と違う海面水温の状況が長期間続くことにより北半球を取り巻く偏西風に影響を与えます。これにより、世界中の天候に影響を与え、高温、低温、長雨、少雨等の異常気象を発生させることがあります。四国地方（西日本）では、気温は夏から秋は気温が低く、冬は平年並みか高くなる傾向があります。なお、降水量には明確な傾向はありません。



エルニーニョ現象の模式図